

IHI

Realize your dreams

IHI REPORT

第196期

平成24年4月1日～平成25年3月31日



160
Thanks 160th Anniversary



三現主義による「ものづくり」技術で、
当社グループは、
社会の夢を実現する企業グループへ
進化を続けてまいります。

代表取締役社長
兼 最高経営執行責任者

齋藤 保

Q

平成24年度は、「グループ経営方針2010」の最終年度でした。総括をお願いいたします。

A

最終年度であった平成24年度は、連結売上高1兆2,560億円、連結経常利益362億円となり、「グループ経営方針2010」で掲げた連結売上高1兆4,000億円、連結経常利益600億円の数値目標を達成することはできませんでした。また、受注額も1兆2,256億円にとどまりました。

一方、本中期経営計画の初年度から3期連続で有利子負債残高を4,000億円未満に抑えることができ、4期連続で事業部門すべてでの営業黒字を達成しました。

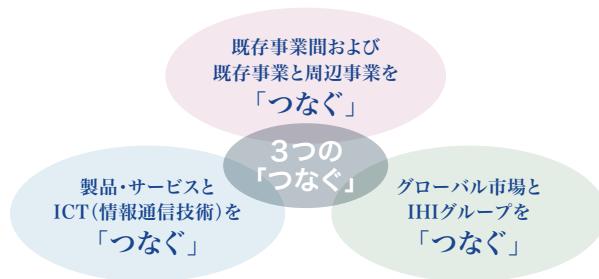
また、発電用ガスタービン、熱処理炉、航空エンジン等の海外メンテナンス拠点の設立、アフターサービス分野での安定的な受注の確保など「ライフサイクル重視のビジネスモデル」への転換の促進、褐炭を有効利用できる二塔式ガス化炉事業の本格展開、エアバス社A320neo用の新型エンジン「PW1100G-JM」の開発・生産への参画など「市場ニーズに即した製品戦略」の進展、そして米州に加え上海、シンガポールに地域統括会社を設立するなど「グローバルな事業運営」の基礎づくりを行なうことができ、「グループ経営方針2010」に掲げた3つのパラダイム転換は着実に進展し、成長軌道を確立することができました。

Q 今年度から「グループ経営方針2013」が始まります。初年度はどのように取り組まれるのでしょうか？

A 「グループ経営方針2013」では「成長の実現」をテーマとし、平成27年度における連結売上高1兆4,000億円、連結営業利益700億円という数値目標を掲げています。この数値目標の達成のためには、良質な受注をしっかりと獲得することが何よりも重要です。そこで、初年度である平成25年度は、1兆4,000億円の受注計画を立てました。

地域別に重点取り組み事業・機種を定めて、新興国をはじめとしたグローバルな需要を確実に取り込んでまいります。

また、航空エンジンや車両過給機等の事業においては製品そのものの価値を高め、ボイラやガスプロ



セス等の事業においては製品やサービスを組み合わせたシステムを提供することでお客様のニーズに応えてまいりたいと考えています。

これらの取組みを加速させるために、本年4月に「ソリューション統括本部」、「高度情報マネジメント統括本部」、「グローバルビジネス統括本部」を新設しました。これらの新組織を中核にして、「グループ経営方針2013」で掲げた3つの「つなぐ」をスピーディーに実践し、成長を実現してまいります。

決算ハイライト(連結)

(単位：億円)

科目	平成24年度(実績)	平成25年度(予想)
受注高	12,256	14,000
売上高	12,560	13,100
営業利益	421	480
経常利益	362	370
当期純利益	333	180

期末配当について

当期末における配当につきましては、1株当たり5円とさせていただきます。

Q 最後に株主の皆さまへ一言、お願いいたします。

A 私は、現場を意識し、現物を見て、現実を把握して迅速に対応する「三現主義」に立脚した日々の地道な改善の積重ねからなる「ものづくり」技術が当社の基盤であると確信しております。その「ものづくり」力でお客さまの価値を創造し、「Realize your dreams」を実現する企業グループへ進化を続けてまいりたいと存じます。

株主の皆さまのご支援のほどよろしくお願いいたします。

グループ経営方針2013 ～成長の実現に向けて～

2013

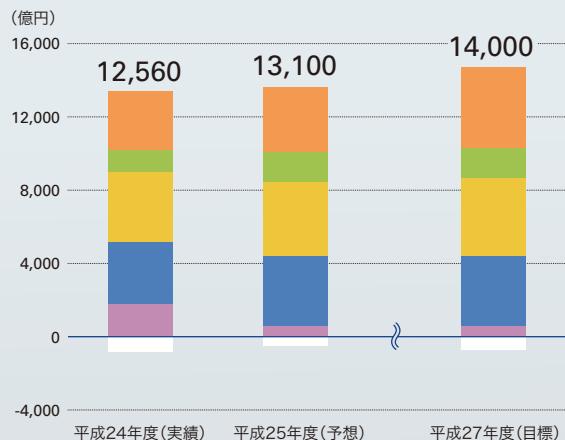
「グループ経営方針2013」の経営目標は以下のとおりです。

経営目標 (平成27年度での達成をめざす)

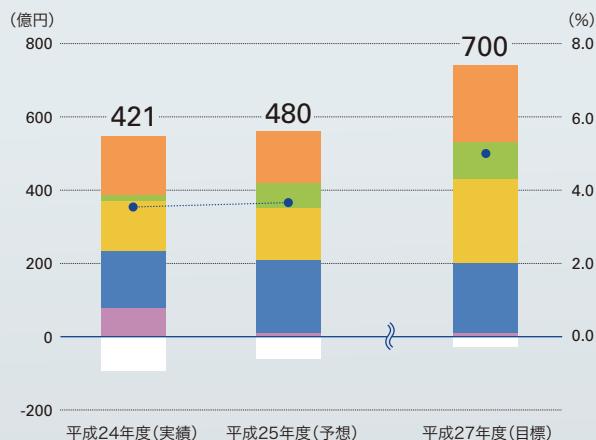
連結売上高……1兆4,000億円

連結営業利益…700億円

売上高



営業利益(左軸) / 営業利益率(右軸)



■ 資源・エネルギー・環境
■ 社会基盤・海洋
■ 産業システム・汎用機械
■ 航空・宇宙・防衛
■ その他
■ 調整額
● 営業利益率

投資総額 4,000億円(平成25~27年度)

- 成長のための投資を重点的に行なう。成長・注力事業と主力事業に約7割を使用
- 3年間で、設備投資1,900億円, 研究開発投資1,100億円, 投融資1,000億円
- 今年度計画: 設備投資670億円, 研究開発投資370億円
- 3年間で、セグメント別には以下のとおり投資

資源・エネルギー・環境…900億円 航空・宇宙・防衛…1,200億円
 社会基盤・海洋……………650億円 本社……………250億円
 産業システム・汎用機械…1,000億円

D/Eレシオ 1.2倍以下(平成27年度末)

- 有利子負債の増加は最低限にとどめて内部資金で投資財源を賄うことと、利益創出による自己資本の拡充を原則に達成
- ※D/Eレシオ=有利子負債/純資産

ROIC 6.5%(平成27年度末)

- 財務規律を維持して4,000億円の投資総額を確保しつつ、成長戦略の実行を通じて営業利益700億円を達成
- ※ROIC(投下資本利益率)=(営業利益+受取利息・配当金)税引後/(自己資本+有利子負債)

これまでの7セグメントを4事業領域をベースとした4セグメントとし、すべてのセグメントで、成長を実現します。

事業別展開

資源・エネルギー事業	➔	資源・エネルギー・環境事業 <ul style="list-style-type: none"> ●米国エンジニアリング子会社、IHI E&Cの強みを生かし、米国コープポイント天然ガス液化設備のEPC事業を確実に遂行 ●当社相生事業所内に設置した世界最大級の石炭燃焼試験設備を活用し、低品位炭の燃焼試験やCO₂分離回収の技術開発を加速 ●北米バイオマス発電事業の拡大 など 	 <p>天然ガス液化プラント(イメージ図)</p>
船舶・海洋事業		社会基盤・海洋事業 <ul style="list-style-type: none"> ●海外案件(トルコ:イズミット湾横断橋、ベトナム:ニャットン橋)の円滑な遂行 ●ブラジル等海洋案件への積極的な取組み ●SPBタンク建造を中核に、海洋構造物の取組みを強化 など 	 <p>イズミット湾横断橋(イメージ図)</p>
社会基盤事業		産業システム・汎用機械事業 <ul style="list-style-type: none"> ●車両過給機のタイ工場を増設し、中国向けキーパーツ供給増強 ●昨年10月に開設したインドネシアの現地法人により、日系企業の工場進出に伴う運搬機械の需要急拡大に対応 など 	 <p>IHI TURBO (THAILAND)の新工場(第三工場)</p>
物流・産業機械事業		航空・宇宙・防衛事業 <ul style="list-style-type: none"> ●新型エンジンの開発を遂行、量産体制構築 ●本年8月のイブシロンロケット初号機打上げに向け、開発進捗中 ●宇宙科学ならびに地球観測分野において、小型衛星技術と推進系技術を活用 など 	 <p>イブシロンロケット ©JAXA</p>
回転・量産機械事業			
航空・宇宙事業			
その他事業			

新事業の展開 (現在の主な取り組み事例)

- ▶株式会社UMNファーマと共同出資して設立した原薬製造会社、株式会社UNIGENにてインフルエンザワクチン原薬を製造
- ▶藻類バイオ燃料の製造・販売をめざす

UNIGEN 岐阜工場

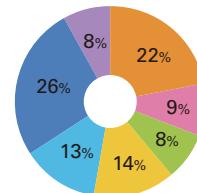
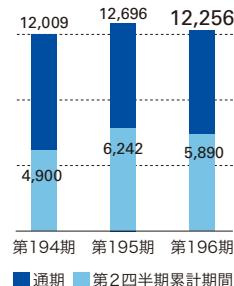


受注高(連結)

当期のポイント

4期連続で「資源・エネルギー事業」、「船舶・海洋事業」、
「社会基盤事業」、「物流・産業機械事業」、
「回転・量産機械事業」、「航空・宇宙事業」、「その他事業」の
全事業部門で営業黒字を達成しました。

(単位:億円)



資源・
エネルギー事業

化学プラントが増収

前期 ▶ 当期 (単位:億円)

3,128 ▶ 2,901

原子力機器・ボイラが減少し、227億円減の2,901億円



船舶・海洋事業*

平成25年1月1日付でジャパン マリンユナイテッド株式会社が発足、当社の持分法適用関連会社に

767 ▶ 1,161

艦艇を含む新造船5隻の受注により、394億円増の1,161億円



社会基盤事業

前期にイズミット湾横断橋(トルコ)の受注があった影響で受注高が減少

1,995 ▶ 970

前期の大型案件の影響で、1,025億円減の970億円



物流・
産業機械事業

製鉄機械、運搬機械、駐車装置が増収増益

1,655 ▶ 1,778

駐車装置、運搬機械、製紙機械が増加し、122億円増の1,778億円



回転・
量産機械事業

車両過給機が増収

1,615 ▶ 1,657

車両過給機が増加し、42億円増の1,657億円



航空・
宇宙事業

民間向け航空エンジンが増収増益

3,311 ▶ 3,448

宇宙開発関連機器、民間向け航空エンジンが増加し、137億円増の3,448億円



その他事業

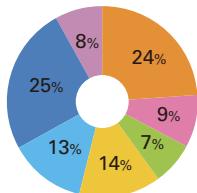
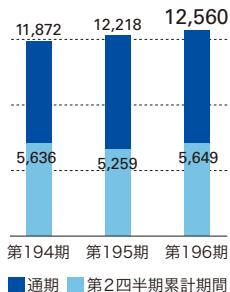
明星電気株式会社の子会社化等により増収

1,052 ▶ 1,100

明星電気株式会社の連結子会社化により、48億円増の1,100億円

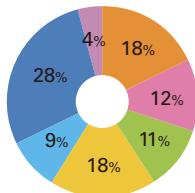
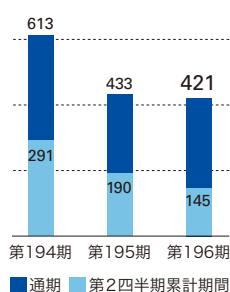
売上高(連結)

(単位:億円)



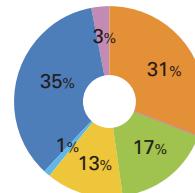
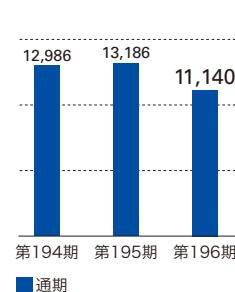
営業利益(連結)

(単位:億円)



受注残高(連結)

(単位:億円)



前期▶当期(単位:億円)

3,123 ▶ 3,172

化学プラントが増加し、
48億円増の3,172億円

前期▶当期(単位:億円)

109 ▶ 98

販売費及び一般管理費が
増加し、11億円減の98億円

前期▶当期(単位:億円)

3,684 ▶ 3,401

1,762 ▶ 1,173

新造船、修理船ともに
減少し、588億円減の
1,173億円

79 ▶ 65

売上高の減少等により、
13億円減の65億円

1,888 ▶ —

1,147 ▶ 1,014

船用機械、シールドが
減少し、132億円減の
1,014億円

82 ▶ 58

売上高の減少等により、
24億円減の58億円

1,901 ▶ 1,852

1,529 ▶ 1,916

製鉄機械、運搬機械、
駐車装置が増加し、
387億円増の1,916億円

56 ▶ 99

売上高の増加により、
42億円増の99億円

1,583 ▶ 1,471

1,658 ▶ 1,698

車両過給機が増加し、
39億円増の1,698億円

104 ▶ 52

車両過給機の
増産対応費等により、
51億円減の52億円

178 ▶ 151

2,994 ▶ 3,384

民間向け航空エンジン、
防衛機器システムが増加し、
390億円増の3,384億円

60 ▶ 154

民間向け航空エンジンの採
算性向上等により、93億円
増の154億円

3,688 ▶ 3,935

1,073 ▶ 1,079

明星電気株式会社の連結
子会社化の効果等により、
6億円増の1,079億円

11 ▶ 21

建設機械の
採算性向上等により、
10億円増の21億円

259 ▶ 327



連結貸借対照表(要旨)

科目	前期末	当期末
	平成24年3月31日	平成25年3月31日
流動資産	844,364	814,786
現金及び預金	63,914	73,032
受取手形及び売掛金	348,671	348,350
棚卸資産	351,044	316,303
その他	80,735	77,101
固定資産	493,767	549,453
有形固定資産	334,745	321,057
無形固定資産	23,612	39,143
投資その他の資産	135,410	189,253
資産合計	1,338,131	1,364,239

(単位:百万円)

科目	前期末	当期末
	平成24年3月31日	平成25年3月31日
流動負債	689,693	665,452
支払手形及び買掛金	293,493	266,299
短期借入金及び社債、コマーシャルペーパー	134,194	120,927
前受金	104,393	106,377
その他	157,613	171,849
固定負債	389,963	399,505
長期借入金及び社債	195,417	214,784
その他	194,546	184,721
負債合計	1,079,656	1,064,957
株主資本	254,342	282,748
資本金	95,762	95,762
資本剰余金	43,044	43,047
利益剰余金	116,083	144,675
自己株式	△ 547	△ 736
その他の包括利益累計額	△ 4,203	5,636
新株予約権	462	563
少数株主持分	7,874	10,335
純資産合計	258,475	299,282
負債・純資産合計	1,338,131	1,364,239

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前期	当期
	平成23年4月1日～平成24年3月31日	平成24年4月1日～平成25年3月31日
売上高	1,221,869	1,256,049
売上原価	1,025,884	1,059,279
売上総利益	195,985	196,770
販売費及び一般管理費	152,652	154,629
営業利益	43,333	42,141
営業外収益	14,208	17,070
営業外費用	15,826	22,992
経常利益	41,715	36,219
特別利益	22,091	25,985
特別損失	9,491	4,959
税金等調整前当期純利益	54,315	57,245
法人税等	29,147	22,446
少数株主利益	1,345	1,413
当期純利益	23,823	33,386

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前期	当期
	平成23年4月1日～平成24年3月31日	平成24年4月1日～平成25年3月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	24,743	74,347
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 37,722	△ 61,033
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 38,542	△ 3,150
現金及び現金同等物の期末残高	63,498	72,070



資源・エネルギー事業

褐炭から水素ガスを製造する二塔式 ガス化炉(TIGAR®)の実証プラントを インドネシアに建設、実証運転へ

当社は、これまでほとんど利用されていなかった低品位な石炭である褐炭から肥料の原料となる水素ガスを製造する、褐炭ガス化炉の実証プラントをインドネシアに建設し、来年からの実証運転に向けて準備中です。

褐炭はインドネシアをはじめ、ドイツ、オーストラリアなど世界各国に分布し、全石炭の埋蔵量の半分を占めています。しかしながら、水分を多く含み、自然発火性が高いことからこれまで利用方法が限られていました。

当社独自開発のガス化炉は、褐炭を比較的低温かつ大気圧下でガス化することが可能なため、安価で運用性・メンテナンス性に優れております。また、褐炭だけではなくCO₂を排出しないとされるバイオマスも燃料として活用できるため、環境

負荷の低減にも寄与します。

当社は、本プラントでの実証運転を通して性能・信頼性を確認し、平成27年度には商用プラントの受注をめざしてまいります。



実証プラント外観(3D CAD図)



船舶・海洋事業

ジャパン マリンユナイテッド 株式会社が発足

平成25年1月、株式会社アイ・エイチ・アイ マリンユナイテッドとJFEホールディングス株式会社傘下のユニバーサル造船株式会社は経営統合し、ジャパン マリンユナイテッド株式会社(JMU)が発足いたしました。

本経営統合の目的は、商品ラインナップの拡充、造船所毎の船種集約による生産性の向上、省エネルギー環境対応技術の結集による新商品開発のスピードアップなどのシナジー効果を発揮し、強固な事業基盤と高い競争力を確立し、世界的な大競争の中で事業継続とさらなる成長を図ることにあります。

当社は、JMUの株主として同社の取組みを後押しするとともに、当社の原動機、プラント事業等とのシナジー効果を追求することでグループ経営成績を向上させ、株主の皆さまのご期待に応えてまいります。



ジャパン マリンユナイテッド 株式会社



社会基盤事業

当社グループ初のベトナム自社工場建設

当社グループのベトナム法人であるIHI INFRASTRUCTURE ASIA CO., Ltd.(IIA)は、ハイフォン市ディンブー工業団地に新工場を建設することにいたしました。

新工場は当社グループとしてベトナムで初めての自社工場(従来はリース工場)となり、平成26年度上期より橋梁などの鋼構造物の生産を開始し、順次、機械製品およびコンクリート製品の生産能力の増強を完了する予定です。

近年、東南アジアではインフラ開発が進んでおり、需要の増加が見込まれます。IIAはベトナムにおける橋梁を主とするエンジニアリング、鋼構造物の製作・据付の拠点としての役割を担っており、これまでの内陸部から沿岸部に移転するとともに、生産能力を増強し、それらの需要に積極的に応えてまいります。



調印式の様子



物流・産業機械事業

ベトナム製鉄所向け 世界最大級の連続式 アンローダを受注

IHI運搬機械株式会社(IUK)は、ベトナムの製鉄会社であるフォルモサ・ハティン・スチール社より鉱石・石炭荷役用連続式アンローダ2基を受注いたしました。

今回受注したのは、フォルモサ・ハティン・スチール社が平成27年に火入れを予定している東南アジアで最大の高炉一貫製鉄所に設置されるアンローダで、鉄鉱石毎時3,000トン、石炭毎時2,100トンという世界最大級の荷役能力を有するベトナムでは初の連続式アンローダとなります。

当社グループでは、これまで培ってきた経験と知識に基づくエンジニアリング力で、世界中のお客さまの幅広いニーズに最も適合するソリューションを提案してまいります。



同型の連続式アンローダ



回転・量産機械事業

タイに車両過給機の 新工場が完成

タイ東南部のチョンブリ県アマタナコン工業団地に、IHI TURBO(THAILAND) CO., LTD.(ITT)の新工場が完成し、同社の第三工場として稼働を開始いたしました。

東南アジアでは、ディーゼルエンジン車の需要拡大と環境規制の強化から車両過給機の需要の増加が見込まれています。

日系自動車メーカーの東南アジア向けの戦略拠点であるタイにおいて、ITTはピックアップトラック向けを中心に車両過給機の生産と販売を行なっています。現在、年間生産台数は120万台に達し、タイ国内シェアは80%を超えています。新工場では車両過給機のキーパーツを生産し、タイ国内のみならず、中国など各拠点への部品供給機能の役割を担います。

当社グループでは、今後もITTを車両過給機の重要な中核拠点として位置付け、グローバル生産体制の構築を一層強化してまいります。



ITT第三工場の全景(床面積10,000㎡)



航空・宇宙事業

当社初の民間航空機エンジンの 海外修理拠点を設立

当社は、航空機部品修理を専門とする米国International Component Repair社と、民間航空機エンジンの修理を行なう合弁会社IHI-ICR, LLC.(IHI-ICR)を米国に設立することで合意しました。

IHI-ICRでは、エアバス社の航空機A320に搭載されているエンジン「V2500」の主要構成部品である燃料温度制御機器(Fuel Diverter & Return Valve)の修理を行ないます。これまで、当社の航空機エンジン部品の修理拠点は瑞穂工場のみでしたが、第2の拠点となるIHI-ICRを設立することで、主に北・中・南米地区のエアラインからのエンジン部品の修理を受託し、お客さまに近い拠点で部品の修理を行なうことにより、コストの削減や納期の短縮などをめざします。

当社は、IHI-ICRの設立を足掛かりとして、これからも海外における積極的な航空機エンジン整備事業を展開してまいります。



設立記念式典の様子



その他事業

クリーン燃焼で新排出ガス規制に対応した産業用エンジンを開発、EPA認証取得

当社と株式会社IHIシバウラ(ISM)は、建機・農機などに幅広く搭載されるディーゼルエンジンにおいて、排気の後処理を大幅に簡素化したエンジンを開発し、DPF※1を使用しない多用途エンジンとしては国内メーカーで初めて米国の環境保護庁(EPA)による第4次排出ガス規制(Tier4規制※2)の適合認証を取得いたしました。

DPFを使用したエンジンでは定期的にフィルタで捕集したススを燃焼除去する再生プロセスが必要です。そこで、当社グループでは、保有する燃焼、流体、構造などの技術を活用し、エンジン内部の燃焼をクリーン化することで、DPFを使用しない、コンパクトで燃焼効率の良いエンジンの開発に成功いたしました。また、再生プロセスに伴う燃料の消費が抑えられるだけでなく、定期的なフィルタのメンテナンスも不要となり、環境にもお客さまにも優しいエンジンとなりました。

当社およびISMでは、排ガス規制が先行する欧米の建設機械、農業機械、発電機、コンプレッサーなどを中心に販売を開始し、3年後には世界で5万台の販売を見込んでおります。

当社グループでは、今後もグループの技術力を結集し、製品の環境負荷の低減に努め、地球環境の保全に取り組んでまいります。



ディーゼルエンジン(左)
EPA認証書(右)

※1 DPF: Diesel Particulate Filter: エンジンの排気中のススを捕集・除去するために一般的に使用されているディーゼル粒子状物質フィルタ

※2 Tier4規制: 米国の大幅な環境負荷低減を目的とした、エンジンなどから排出される有害ガスの排出規制



東北支社に復興推進グループを発足

東北地方において、当社グループは福島県相馬市に従業員約1,700名の工場を有する地元企業であり、またこれまで橋梁、水門、発電設備等のインフラを提供してまいりました。

平成23年3月の東日本大震災以降、被災地の復旧・復興に向けて様々な取組みを進めてまいりましたが、平成24年5月には、「技術をもって社会の発展に貢献する」という経営理念のもと、東北支社(仙台市)に「復興推進グループ」を発足し、①除染・震災瓦礫処理、②インフラ整備、③再生可能エネルギー、④被災企業の再建という4つのテーマに重点的に取り組み、これまで蓄積してきた技術を被災地復興へつなげるべく、提案活動を実施しております。

既に、相馬市におけるメガソーラー事業(本年10月より売電事業を開始予定)や株式会社IHIインフラシステムによる岩手県釜石港の湾口防波堤(ハイブリッドケーソン)などの成果もあげておりますが、復興に向けた取組みを今後さらに本格化してまいります。

地域を支え、社会に寄り添う企業として、当社グループはこれからも東日本大震災からの復興に取り組み、貢献してまいります。



釜石港へ向け出渠されるハイブリッドケーソン

会社の概要 (平成25年3月31日現在)

商号 株式会社 I H I
 I H I Corporation
 設立年月日 明治22年1月17日
 本社所在地 〒135-8710
 東京都江東区豊洲三丁目1番1号
 資本金 95,762,421,600円
 株主数 104,446名
 ホームページアドレス <http://www.ihico.jp>

ホームページのご案内

ホームページでも様々な情報をご覧いただけます。



<http://www.ihico.jp>

役員 (平成25年6月27日現在)

● 取締役

代表取締役会長 釜 和明

代表取締役社長 齋藤 保

代表取締役副社長 中村 房芳
 塚原 一男
 出川 定男

取締役 坂本 譲二
 寺井 一郎
 瓦谷 立身
 井元 泉
 石戸 利典
 岩本 宏
 浜村 宏光
 吉田 詠一

社外取締役 浜口 友一
 岡村 正

● 監査役

常勤監査役 大鷹 秀生
 芹澤 誠

社外監査役 井口 武雄
 郷原 信郎
 渡辺 敏治

● 執行役員

最高経営執行責任者 齋藤 保

常務執行役員 瓦谷 立身
 岩本 宏
 井元 泉
 吉田 詠一
 高田 成人
 寺井 一郎
 朝倉 啓
 満岡 次郎
 浜村 宏光
 桑田 始

執行役員 大谷 宏之
 望月 幹夫
 松井 一良
 純一
 館野 昭
 堂元 直哉
 古川 弘
 安部 昭則
 菅 泰三
 吉田 力
 國廣 孝徳
 識名 朝春

会計監査人

新日本有限責任監査法人 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号 日比谷国際ビル

株式事項 (平成25年3月31日現在)

● 株式の総数

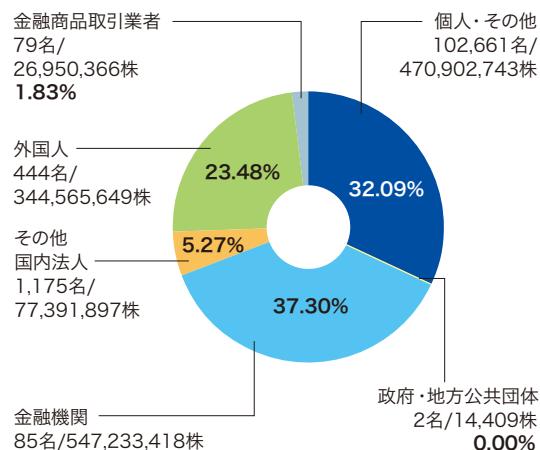
発行可能株式総数	3,300,000,000株
単元株式数	1,000株
発行済株式の総数	1,467,058,482株
うち単元株式数	1,464,212,000株

● 大株主

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	60,305,000	4.12
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(三井住友信託銀行再信託分・株式会社東芝退職給付信託口)	55,422,000	3.78
第一生命保険株式会社	54,060,700	3.69
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	50,095,000	3.42
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託みずほ銀行口再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社	43,680,050	2.98
IHI 共栄会	28,105,000	1.92
日本生命保険相互会社	23,867,886	1.63
住友生命保険相互会社	21,624,000	1.47
株式会社みずほコーポレート銀行	20,801,958	1.42
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニー レギュラーアカウント	19,614,667	1.34

● 株主構成

所有者別株式分布状況



(注)IHI Reportの作成に当たり、金額および持株比率は単位未満を切捨て表示しました。ただし、連結財務諸表の金額は四捨五入表示しました。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会・期末配当:毎年3月31日 中間配当:毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店 および全国各支店で行なっております。

・住所変更, 単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主さまの口座のある証券会社にお申し出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座で管理されている株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

・未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

・ゆうちょ銀行口座配当金受取りサービスのご案内

配当金のお受取りにつき、従来の銀行預金口座へのお振込みおよび株式数比例配分方式に加え、ゆうちょ銀行口座(通常貯金口座)へのお振込みができるようになりました。ご希望の方は、所定の用紙にてお手続きください。

<用紙のご請求先>

証券会社の口座で株式を保有されている株主さま

▶ 株主さまの口座のある証券会社

特別口座にて株式を保有されている株主さま

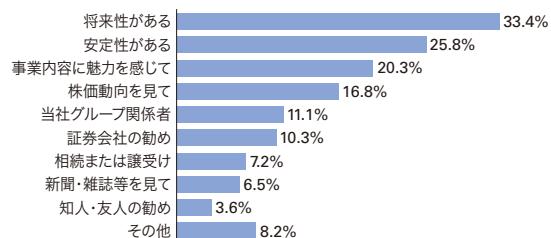
▶ 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
0120-782-031 (フリーダイヤル)

株主さま向け アンケート結果 ご報告

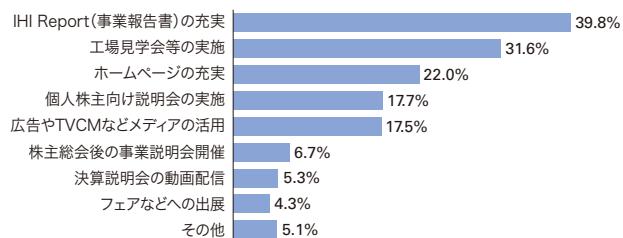
昨年9月30日現在の株主さまを対象に、当社に対するご意見、ご要望等を把握し、今後の経営・IR活動に反映させていくため、「株主さま向けアンケート」を実施し、9,641件のご回答(回答率9.3%)を頂戴しました。

ご協力をいただきました株主さまに心より御礼申し上げるとともに、集計結果の要旨をご報告させていただきます。当社は、アンケートの結果、自由記述欄にご記載いただきましたご意見・ご要望を踏まえ、IHI Reportやホームページにおける経営方針・戦略、事業に関する情報の充実など、株主さまとのより密接なコミュニケーションを図ってまいります。

●株式の購入・保有理由(複数回答)



●株主さまとのコミュニケーションにおいて期待する取組み(複数回答)



Realize your dreams

私たちは世界中の夢を実現したい。

なぜなら、世界中の人びとの役に立つことが私たちの喜びだからです。

それは、お客さまの役に立つことでもあり、

お客さまを通してさらに多くの人びとの役に立つことでもあります。

私たちの仕事は、私たちのすべての「技術」と「ものづくり」の強みを結集し、
私たちならではの価値を、形あるものとして世界に送り出していくことです。

そして、この世界をつなぎ、支えるための「もの」を、誰よりも早く生みだし、

世界のあらゆるところに届けることは私たちの責務でもあります。

私たちは、お客さまや世界中の人びとの夢を実現するものとして、

みんなから頼りにされる存在になりたい。

それが私たちIHIグループの一番大きな夢です。

株式事務のお問合せは

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-782-031(フリーダイヤル)

